『大学卓球にかかわる事となって考えた事・感じた事』

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　関東学生卓球連盟会長　　鈴木一雄

今回、河田会長のアイデアで日本学生卓球連盟ホームページに、現役学生はじめOB・OG・役員等の交流の場【日学連アゴラ】コーナーを設け、全国の学連関係者のコミニケションの活性化や学連全体のレベルUPを計る事になった事大変嬉しく思います。

私も大学卒業後すぐに卓球にかかわった事ではなく、企業に入り約1５年

営業や総務等一般的な会社勤務を経験し働き場所が東京勤務になった事で

母校（中大）の卓球部から手伝いしてほしいと声がかかり、会社の了解を得てそれ以来コーチ・監督そして関東学連理事・理事長・副会長・会長と約30数年学生卓球界を中心に活動して来ました、その間ユニバーシアードやアジア大学選手権等の監督をやらせて頂き当時日本のトップ選手等と一緒に遠征し今でも顔を合わせると声をかけてもらい大変感謝しています。

考えて見ると最初に母校を指導する事を決心しこれ迄続けられたのは

1. まず学生時代にお世話になった母校に恩返しをしたい気持ちが第一
2. 私達夫婦に子供がいなく学生を可愛がる事に妻も理解協力してくれた
3. 選手勧誘後新入学生が徐々に大人になっていく過程で自分自身大変勉強になる事もあり又学生に対して恥ずかしくない大人になる為の指導に大きな責任を感じる様になり生きがいとなった
4. 特に監督を20数年やったことで、選手勧誘の高校の監督や選手のご両親又選手卒業後就職先である実業団監督や講習会等で知り合う各地の協会関係者等色んな方面の友人・知人が増えお付き合いする人の幅が広がり自分自身の人脈が広がった

以上、上記以外続けられた訳は多々ありますが思いつく範囲で述べました。

それと私自身会社で人事を担当、採用にあたりあらゆる競技の大学スポーツ選手の中で卓球をして来た選手は当然気になりました、社会は頭がいい人ばかりでは成り立ちません、採用を決める際大学アスリートが社会で役立つ重要な点は**「スポーツマンシップ」**を身に着けている事です、再度考えて下さい。

最後に、河田会長の座右の銘ご存知ですか！人間力を高める上での物差し「知識」「見識」「胆識」を高める事を教えて頂きました、今後社会人となりトップを目指す人は参考にすべきではないでしょうか。